

# ウクライナにおけるトウモロコシの生産・輸出拡大の可能性

(独)農畜産業振興機構 調査情報部  
新川 俊一



# ウクライナにおけるトウモロコシの生産・輸出拡大の可能性

---

## 【調査の目的】

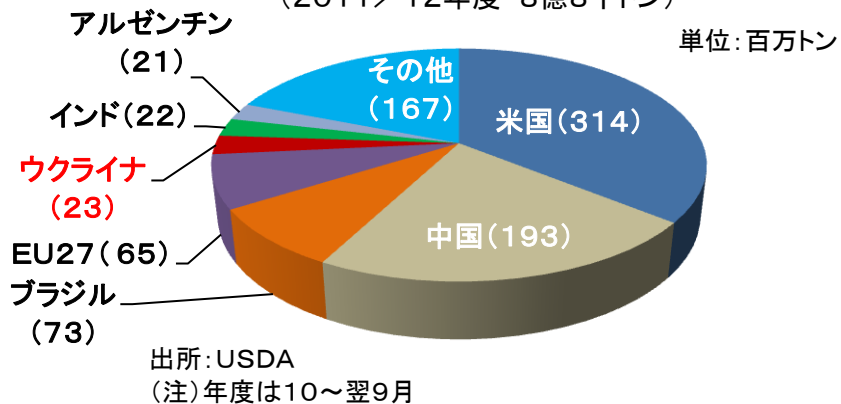
ウクライナ産トウモロコシを、安定的に調達できるのか？

## 【ポイント】

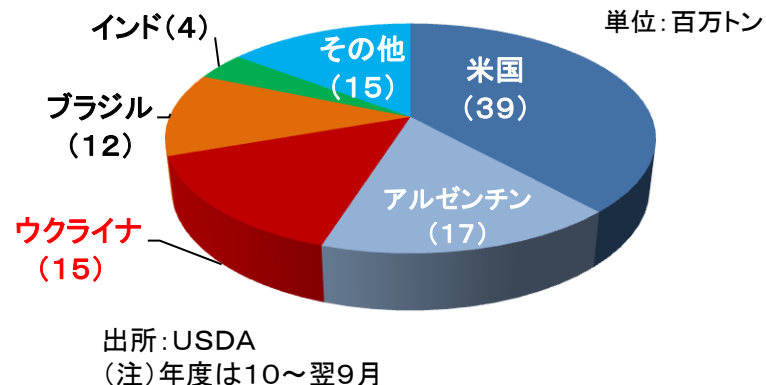
- 1 なぜ、トウモロコシ生産は伸びたのか？
- 2 なぜ、トウモロコシ輸出は拡大したのか？
- 3 トウモロコシ(生産)の課題はなにか？
- 4 今後、トウモロコシ価格は上昇するのか？

# 世界のトウモロコシ生産・輸出状況等

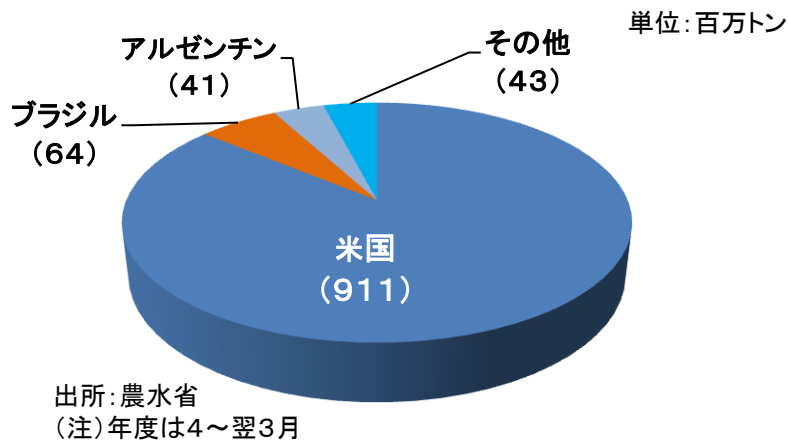
世界のトウモロコシ生産量  
(2011/12年度 8億8千トン)



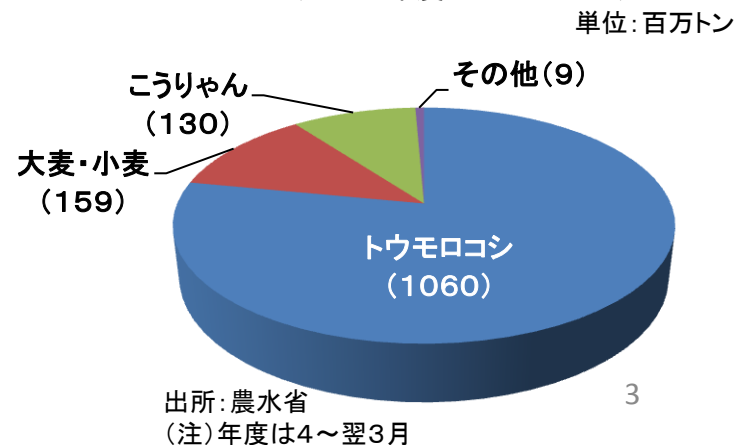
世界のトウモロコシ輸出量  
(2011/12年度 1億トン)



日本のトウモロコシの輸入量  
(2011年度 1060万トン)



(参考) 日本の飼料穀物の輸入量  
(2011年度 1357万トン)



# 農業生産地域及び農地面積

## 概況

- ・西部の気候は、1月-3~-6℃、7月は18℃以下と年間を通じ冷涼。降水量は年間600mm以上。
- ・中央部・北東部の気候は、夏は暑く冬は寒いのが特徴。冬は霜の被害が発生する。
- ・南部の気候は、夏は暑く、冬は温暖。干ばつの影響を受けやすい。
- ・肥沃な黒土の恩恵を受け、全国土の7割に相当する農地の大半が耕地(農地の8割)に利用されている。

## 農産物の主要生産地



出所:ウクライナ統計局

## 農業主要国の農地及び耕地面積(2009年)

単位:百万ha

	農地	耕地
中国	524	110
米国	403	163
ブラジル	265	61
ロシア	216	122
ウクライナ	42	33

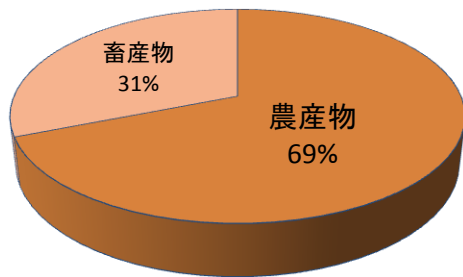
出所:FAOSTAT

# 農産物生産の割合と穀物生産量の推移

## 概況

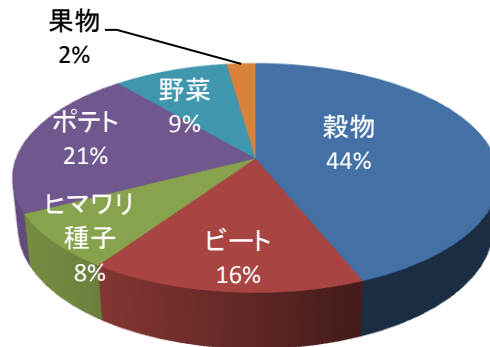
- 11年の農畜産物の生産額は290億ドル(前年比20%増)。農産物生産額は200億ドル(同30%増)、畜産物生産額は90億ドル(同1%増)。
- 農産物生産量の4割が穀物。
- 91年にソ連崩壊後、穀物の生産は大きく落ち込む。その後、天候の影響を受けながらも、穀物の生産量は増加傾向。

農畜産物の生産割合  
(2010年)



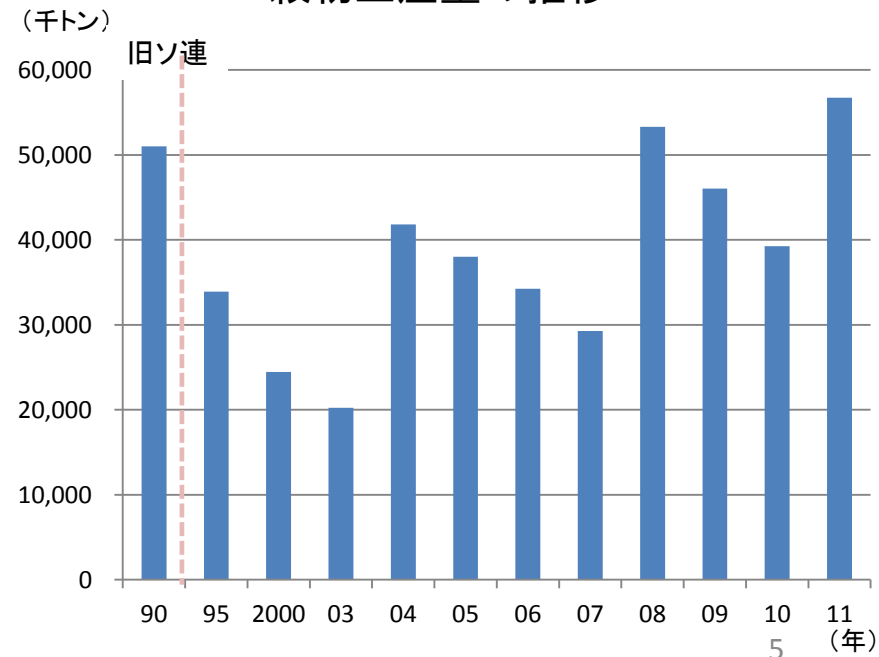
出所: ウクライナ統計局

農産物品目別の  
生産割合 (2010年)



出所: ウクライナ統計局

穀物生産量の推移



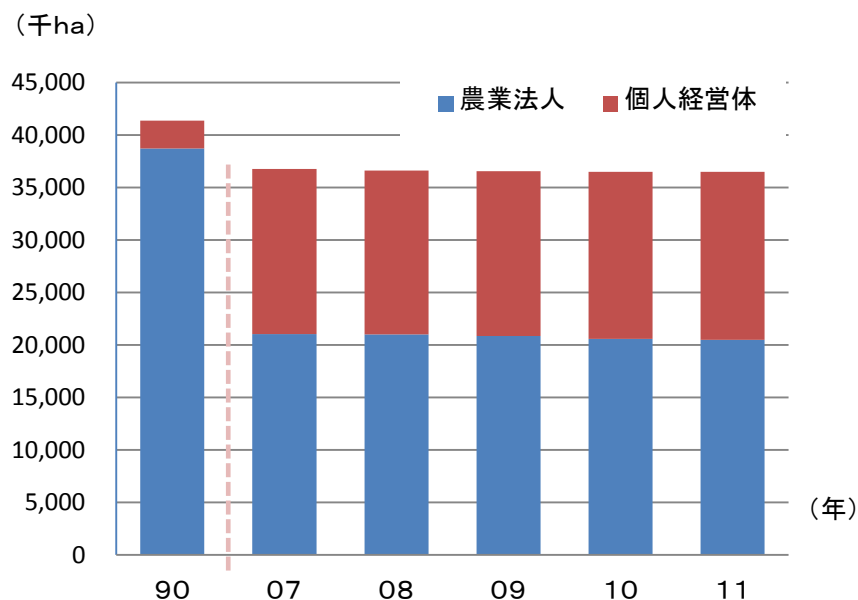
出所: ウクライナ統計局

# 生産構造の変化

## 概況

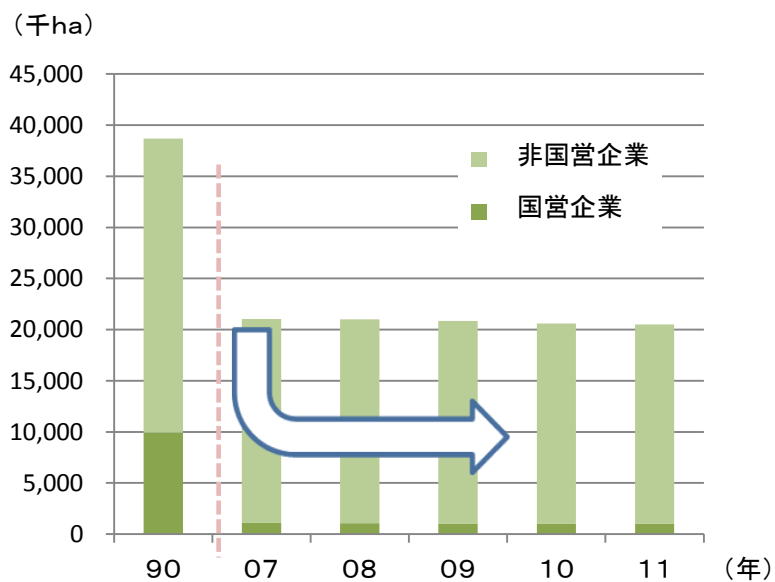
- ・ ソ連時代は、ソフホーズ(国営農場)とコルホーズ(集団農場)が農地利用の太宗を占めていた。
- ・ ソ連崩壊後、ソフホーズが解体したため、国営企業の農地利用面積は著しく減少。コルホーズは、協同組合組織として、しばらく維持した後、管理する土地を従業員(組合員)に分筆。
- ・ 分筆された生産者は高齢であったこともあり、農業を行わず、土地を貸して土地リース代で生計。後に、このような土地を借り受けて、大規模経営に乗り出す経営体が台頭。

### 経営体別農地利用面積の推移



出所: ウクライナ統計局

### 国営企業の農地利用面積の推移



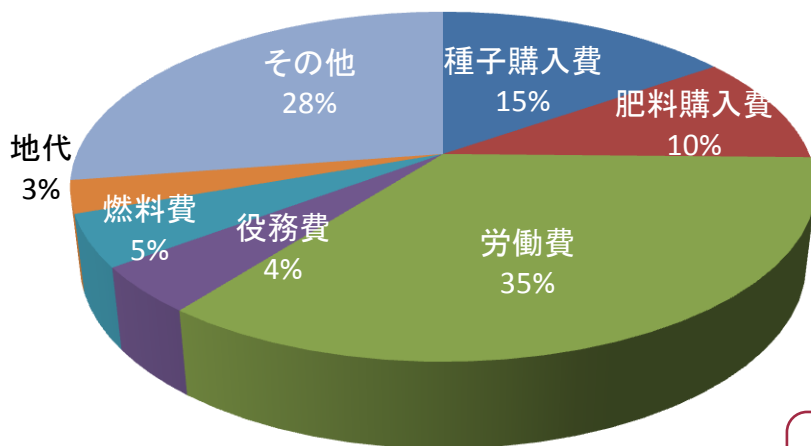
出所: ウクライナ統計局

# 生産コスト割合の構成の変化

## 概況

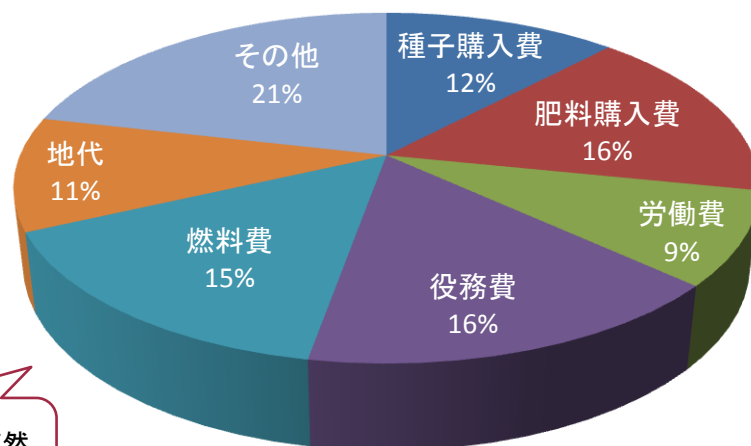
- ・ 穀物生産における生産コスト割合の構成は、旧ソ連時代から大きく変化。
- ・ 国営企業の減少から、**労働費・役務費の割合は減少する一方、土地のリース代など地代の占める割合は増加。**
- ・ **生産資材費の占める割合も増加。**生産者が、生産性を向上させるため、肥料の使用量を増加させたため。

穀物生産における生産コスト構成  
(1990年)



出所: ウクライナ統計局

穀物生産における生産コスト構成  
(2010年)



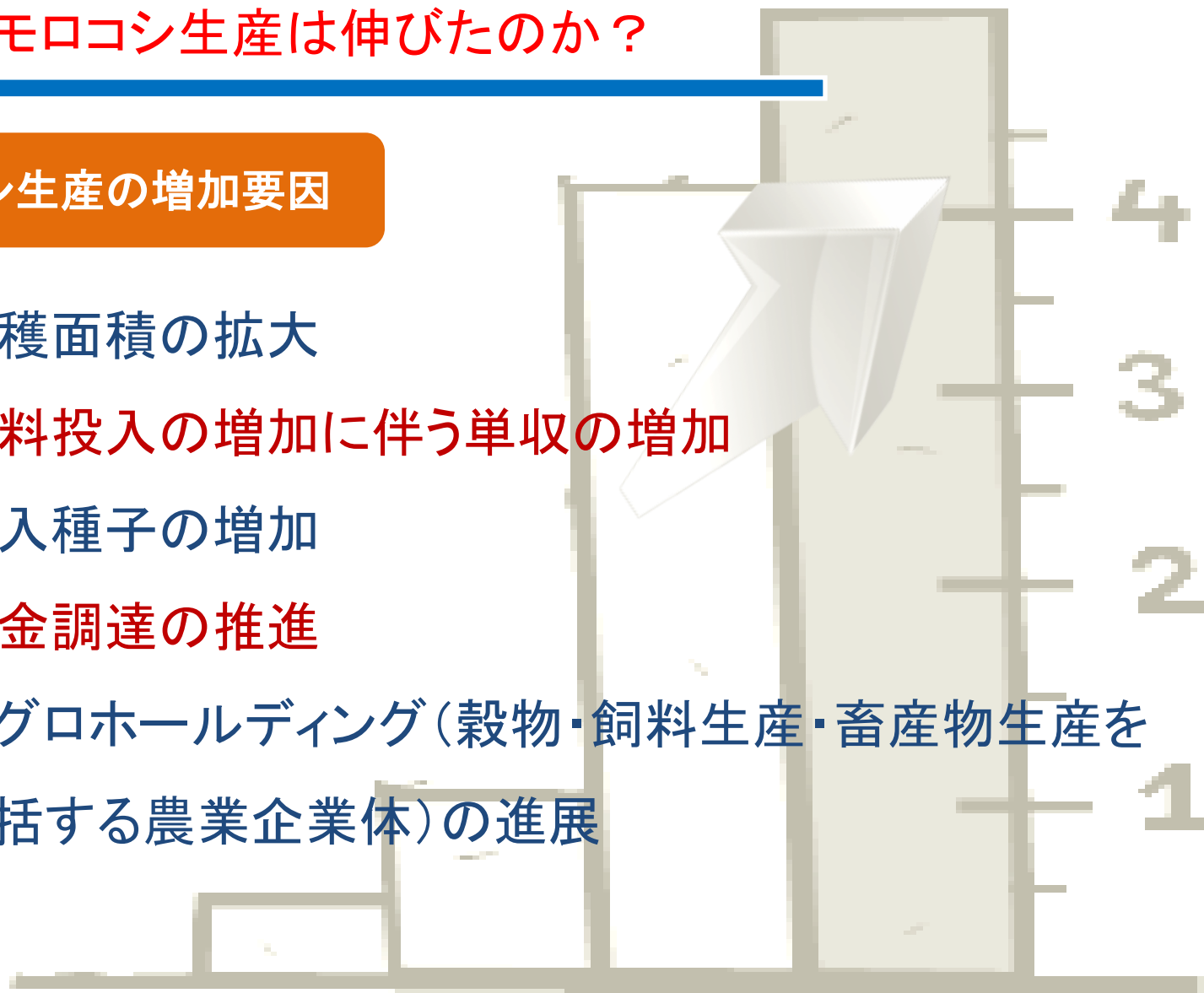
ロシアからの石油・天然ガスの値上がりの影響

出所: ウクライナ統計局

# 1 なぜ、トウモロコシ生産は伸びたのか？

## トウモロコシ生産の増加要因

- 収穫面積の拡大
- 肥料投入の増加に伴う単収の増加
- 輸入種子の増加
- 資金調達の推進
- アグロホールディング（穀物・飼料生産・畜産物生産を包括する農業企業体）の進展



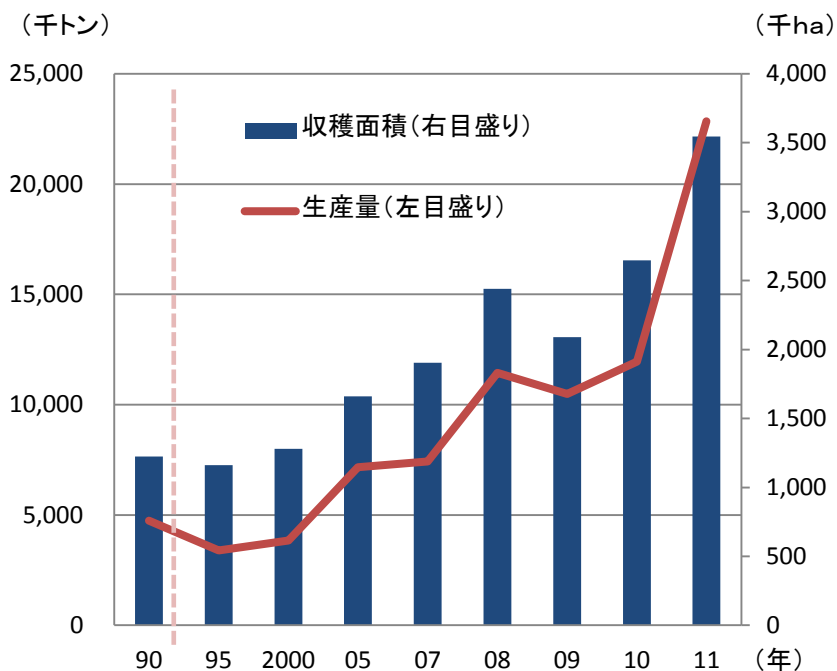


# トウモロコシ生産の増加要因(収穫面積の拡大)

## ポイント

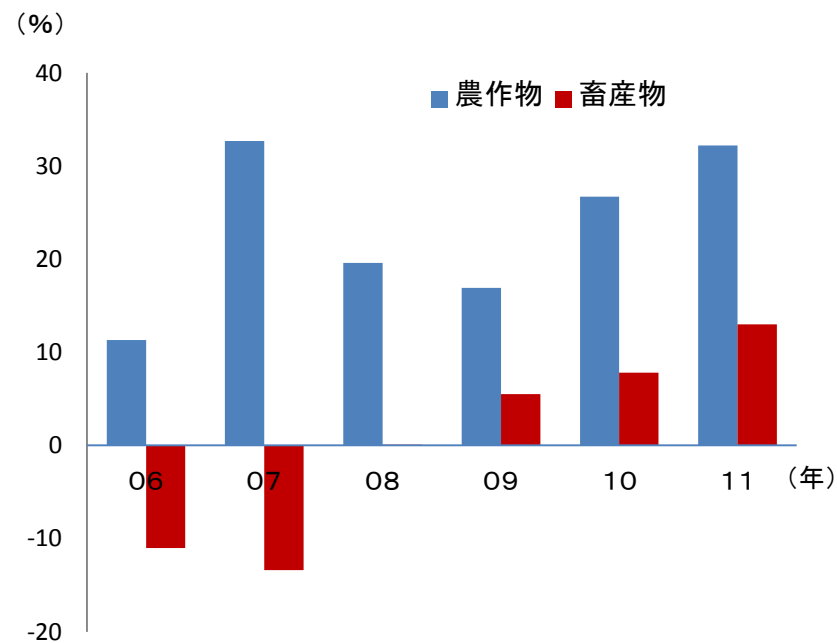
- ・ 11年のトウモロコシ生産量は、約2,300万トン(前年の約2倍、2000年比約6倍)。
- ・ トウモロコシの作付け面積は、おおむね右肩上がりの増加。
- ・ 農作物生産は畜産物生産に比べ、安定的かつ高い収益の確保が可能。

## トウモロコシの収穫面積及び生産量の推移



出所: ウクライナ統計局

## 農業法人における収益性の推移



※ 収益性 = 粗利益 ÷ (売上高 - 生産原価) × 100

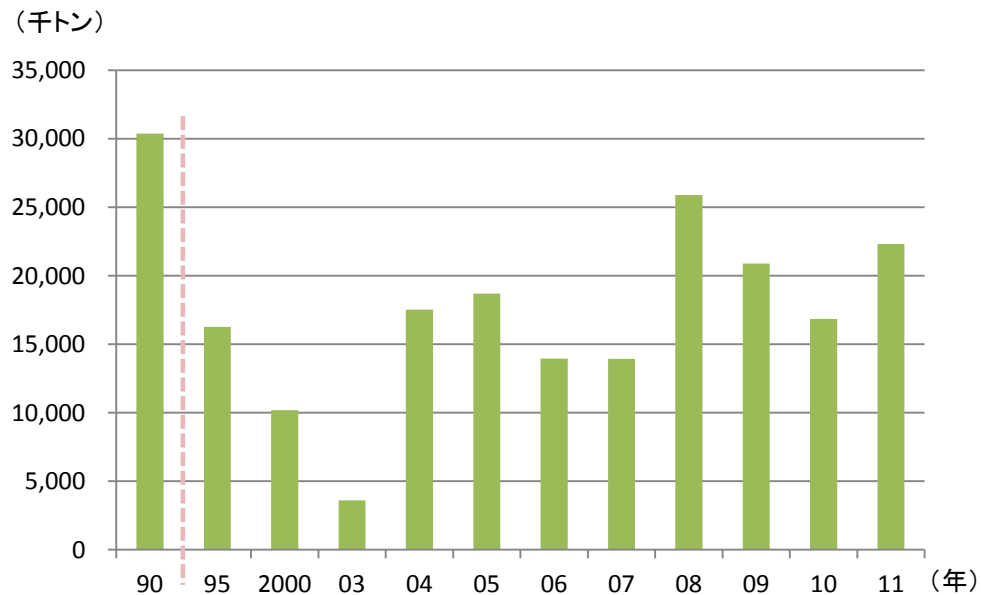
出所: ウクライナ統計局

# トウモロコシ生産の増加要因(収穫面積の拡大)

## ポイント

- 小麦は、天候の影響を受けやすく、生産が不安定。特に、全体の生産の9割を占める冬小麦は、ウインター・キル(霜害)の被害を受ける。
- トウモロコシの収益は、小麦よりもよい(Landkom社; 2010年の収益(1haあたり)は、トウモロコシが744~863ドル、小麦は513~517ドル)。

### 小麦生産量の推移



出所: ウクライナ統計局

### トウモロコシと小麦の収益比較 (2009年)

単位: 米ドル/ha

	トウモロコシ	小麦
大規模生産者	650	562
中小零細生産者	258	199

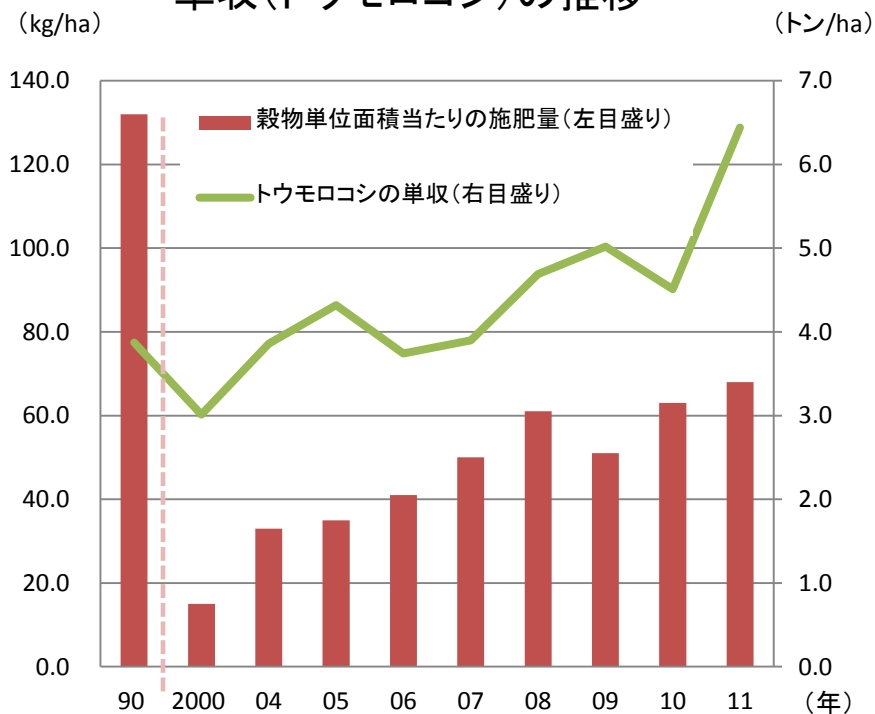
出所: FAO

# トウモロコシ生産の増加要因(施肥の増加)

## ポイント

- ・ 従来、単収が低い要因は、①施肥量の少なさ、②農業機械の老朽化、③栽培技術水準の低さ。
- ・ ソ連崩壊後、生産者は短期的な資金調達が困難であったことから、施肥量は著しく減少。その後、09年を除けば、右肩上がりで施肥量は増加。11年の単収(6.4トン/ha)は向上(前年比43%増、2000年比2倍)。
- ・ 同じような気候・風土のEUと比較すると、依然低水準。

施肥量(穀物)と  
単収(トウモロコシ)の推移



出所: ウクライナ統計局

主要穀物の単収の比較  
(2010/11年度)

単位: トン/ha

	小麦	トウモロコシ	大麦
世界	2.9	5.0	2.4
EU	5.2	7.0	4.3
ウクライナ	2.7	4.5	2.0

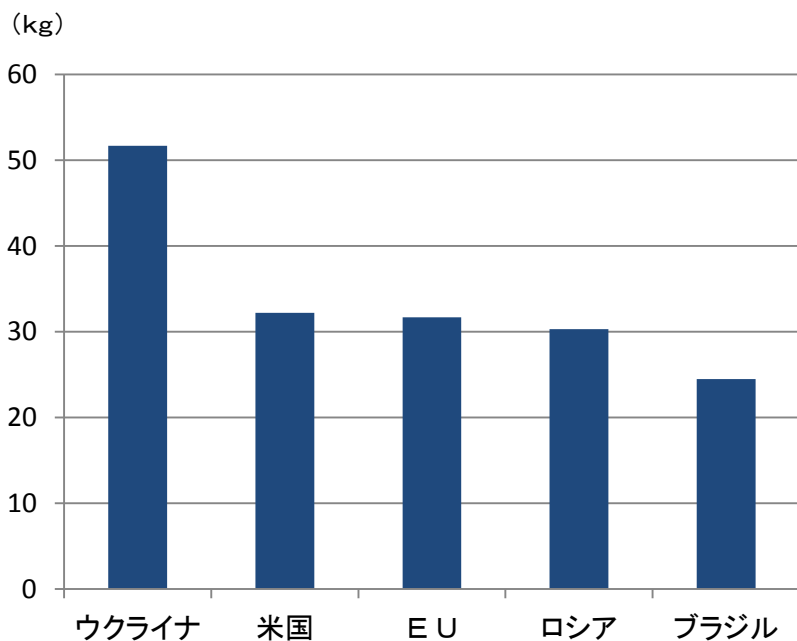
出所: USDA

# トウモロコシ生産の増加要因(施肥の増加)

## ポイント

- ・ 肥料1キロあたりの穀物の収穫量は、肥沃な黒土の恩恵で、主要国に比べて著しく高い。
- ・ 政府によると、**必要施肥量は180キロ/haであるが、その水準には達していない**(EUの施肥量は200~300キロ/ha)。
- ・ 施肥量の増加次第で、**単収のさらなる向上が見込める**。

肥料1キロあたりの穀物収穫量



出所: ウクライナ統計局、ウクライナ投資庁他

## 典型的な生産者の平均施肥量(2010年) (農地; 2,000~2,100ha)

- ・ 1haあたり  
窒素 38キロ  
リン 11キロ  
カリウム 7キロ

・ 単収は  4.5トン/ha



2~2.5トン/ha

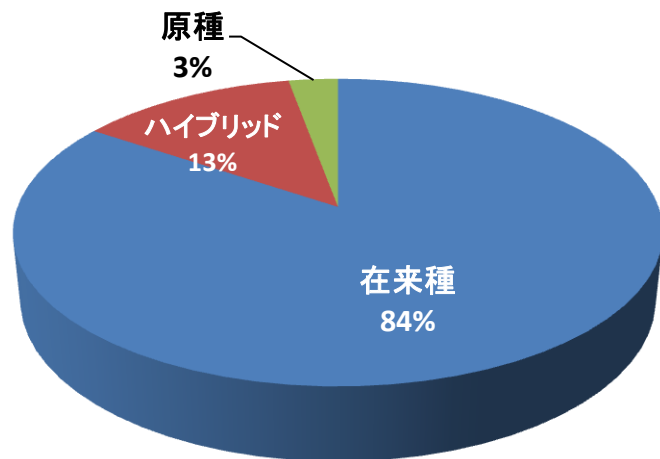
出所: ウクライナビジネスクラブ

# トウモロコシ生産の増加要因(輸入種子の増加)

## ポイント

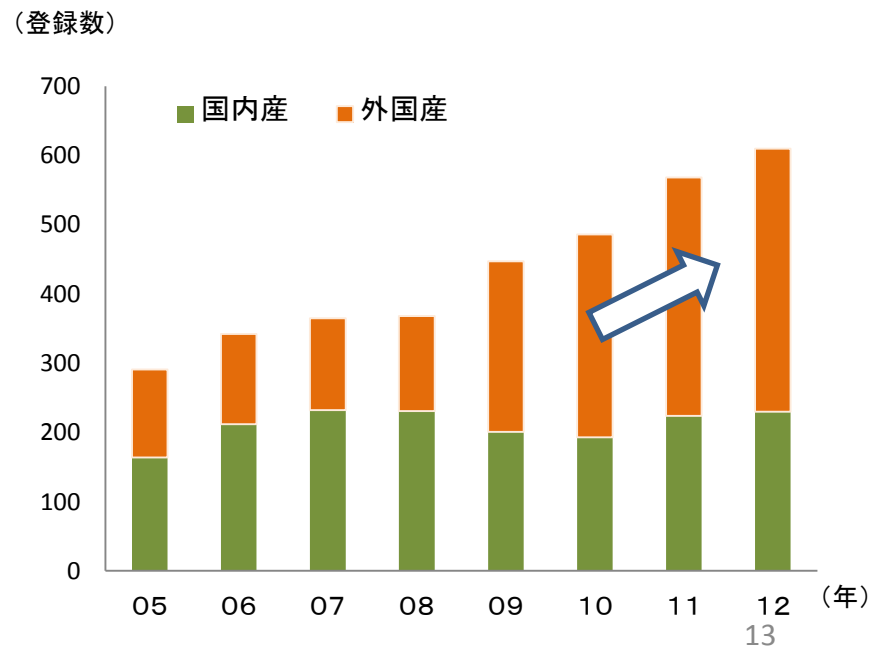
- ・ トウモロコシ種子の国内生産は、**在来種が8割強で、種子の能力に課題。**
- ・ 種子の登録数は年々増加し、**12年は07年の2倍まで著しく増加。**
- ・ 09年以降、種子の登録は**外国産が国内産を上回る**(12年の外国産の登録シェアは6割強)。外国産種子を求める傾向が背景に。

トウモロコシ種子の国内生産割合  
(2011年)



出所: UkrAgroConsult

トウモロコシ種子の登録の推移



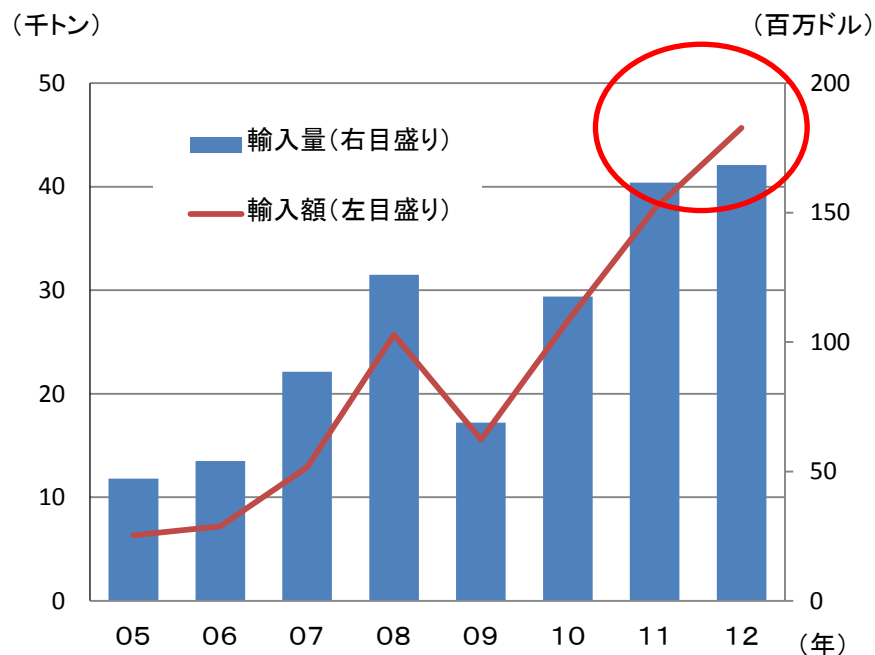
出所: UkrAgroConsult

# トウモロコシ生産の増加要因(輸入種子の増加)

## ポイント

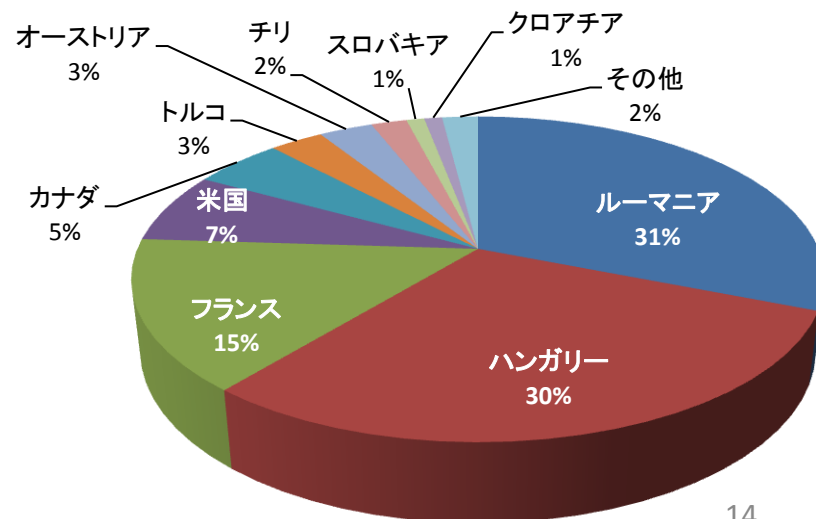
- ・ 10年以降、種子の輸入が急増。11年の輸入量は05年の3倍強。
- ・ 12年の輸入単価(CIF)価格は、前年比15.7%高の4,340ドル/トンと、**高価格帯種子の輸入が進む。**
- ・ 種子の輸入は、09年まで米国が4割を占めた。10年以降米国のシェアは低下し、**11年にはルーマニアとハンガリーで6割のシェアを占める。**

### トウモロコシ種子の輸入の推移



出所: UkrAgroConsult  
(注) 12年は1~3月

### トウモロコシ種子の輸入国別割合 (2011年)



出所: UkrAgroConsult

# トウモロコシ生産の増加要因(輸入種子の増加)

国内で種子生産をめぐる動きが活発化

## Maisadour(フランス)

2010年9月、ドニプロペトロウシク州に新工場(トウモロコシ種子の生産)

<http://photo.ukrinform.ua/eng/current/photo.php?id=349145>

## Cimbria(デンマーク)

大手穀物取扱業者のニブロンと、長期的な業務提携

<http://www.cimbria.com/Files/ForumV2/pdf%20for%20news%20section/Nibulon%20t%20ext%20for%20web.pdf>

## Eridon(ウクライナ)

2009年、ジトームイル州に種子生産プラントを新設

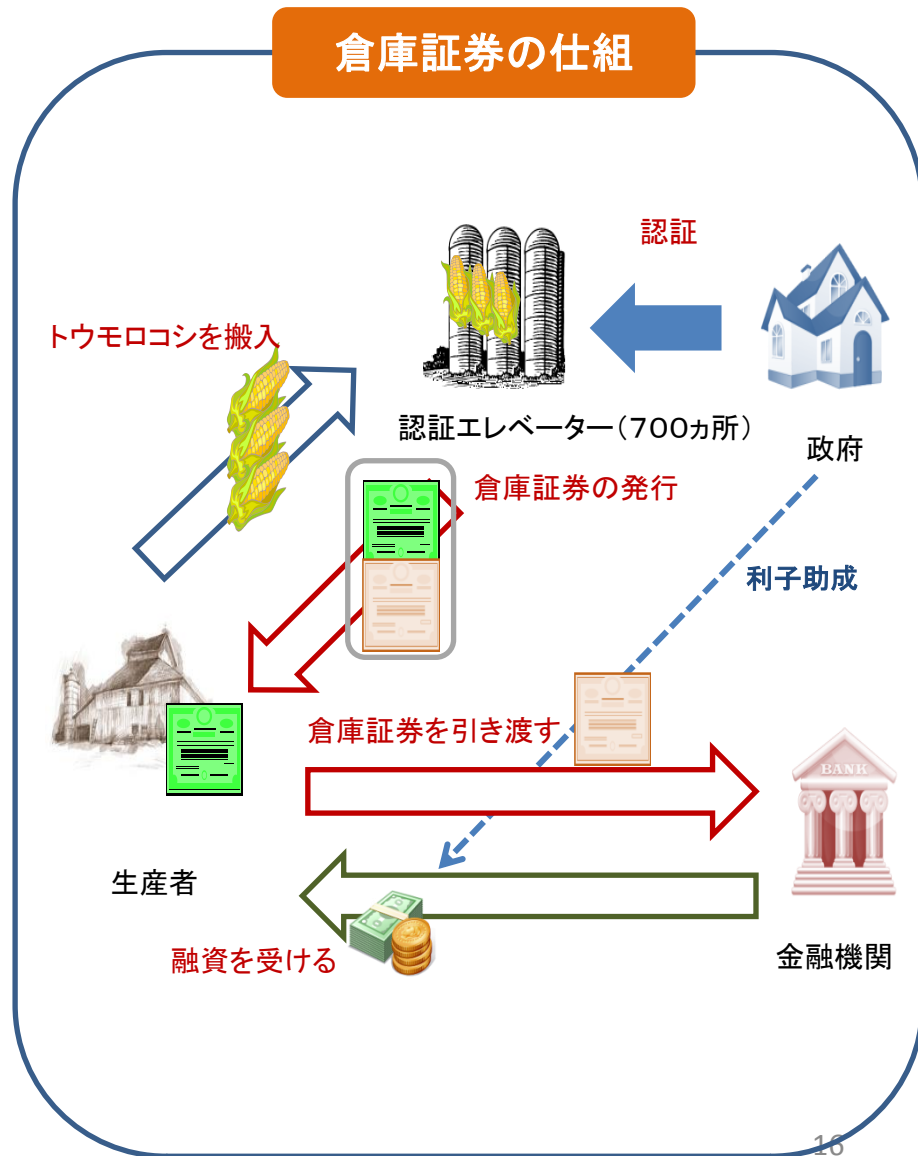
[http://www.eridon.ua/index.php?option=com\\_content&view=article&id=40:2011-05-18-14-45-37&catid=2:2011-05-17-16-06-10&Itemid=3&lang=en](http://www.eridon.ua/index.php?option=com_content&view=article&id=40:2011-05-18-14-45-37&catid=2:2011-05-17-16-06-10&Itemid=3&lang=en)

# トウモロコシ生産の増加要因(生産者の資金調達)

## 農業金融(倉庫証券、WR)

- 生産者は収穫したトウモロコシを政府から認証を受けたエレベーターに保管。引き替えに、倉庫証券(WR)を受け取る。
- 政府は、エレベーターを監督し、WRとトウモロコシの在庫量を把握する(情報の一元管理)。
- 金融機関は、WRを担保として生産者に融資を行う。
- 金融機関への返済は、一般に、生産者からトウモロコシを購入した業者が行う。
- 政府は、生産者に対し、利子助成を実施。

## 倉庫証券の仕組み





# トウモロコシ生産の増加要因(生産者の資金調達)

## 導入の背景

融資コスト高(欧州の約5倍)、農地取引市場の欠如などを要因に、中小零細生産者は担保の手当ができず。融資が困難(あるいは高利融資)であるため、種子の購入などの資金が不足。

※ 融資金利は、ドルベースで25~30%、フリヴニャベースで35~45%

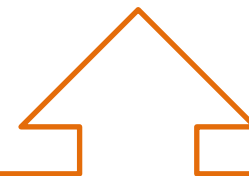


## 制度のメリット

- ・ 生産者は、取引価格に関係なく、資金調達が容易になる。
- ・ 金融機関は、担保があることで、貸し倒れ損のリスクが低減。

## 生産拡大効果

短期資金の制約が解消されたことから、肥料投入などが進み、生産拡大へ



政府が生産者を対象に利子助成を実施  
(金利の50%相当額を補助)

# トウモロコシ生産の増加要因（アグロホールディングの進展）

## アグロホールディングとは

- ・ 英語では「Agroholding」
- ・ 10年前頃から、国内研究者、市場関係者などが「アグロホールディング」という言葉を使用するようになったことが始まり。
- ・ 現在、「アグロホールディング」は、政府関係者などを含め、広く使用されている。
- ・ ただし、公式統計資料には「アグロホールディング」という言葉は使用されていない。

穀物生産、配合飼料製造、畜産物生産などを包括する農業企業体。形態は、出資会社や完全子会社などをグループ化した包括的な企業経営体。

## 経営上のメリット

- ・ 中間業者の排除
- ・ 飼料高の影響を受けにくい畜産物生産
- ・ 自前でサイロを持ち、飼料価格の上昇時に飼料を販売

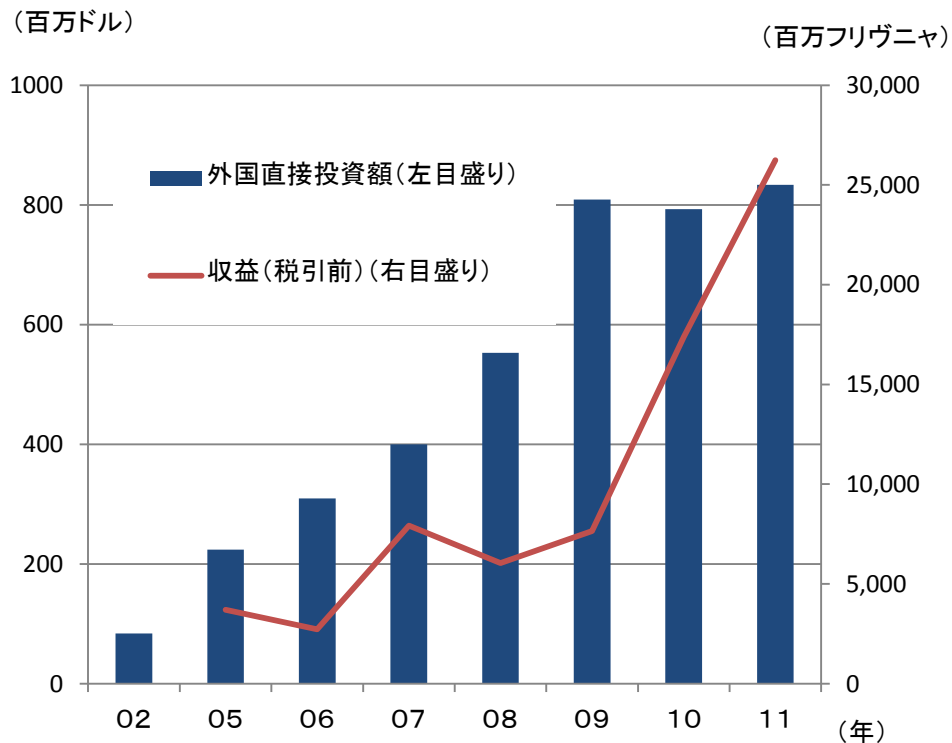


# トウモロコシ生産の増加要因(アグロホールディングの進展)

## 進展の背景

「農業がもうかる」セクターに変化

外資による農畜産業分野への投資額と  
農畜産業分野の収益の推移



農業の収益が高まるにつれて、  
欧米、ロシアなど外資からの投資  
が進む。



外資の豊かな資金力を背景  
に、土地リースを加速させ、  
生産規模を拡大

# トウモロコシ生産の増加要因(アグロホールディングの進展)

## 進展の要因

なぜ、農業ビジネスがもうかるのか



優遇された税制措置の恩恵

### 1 固定農業税(FAT)

- ・ FATは、農業法人に係る税金を一元化したもの。FATは、**土地評価額の一定割合(0.03%~1.0%)**が**税率**となる。FATを支払うことで、法人税(CIT)、土地税、水利用税などが免除される。
- ・ 法人は、FATを支払うか、他の税金を支払うかを選択可能。
- ・ 法人は、全事業収益(税引き前)額の75%が農業生産による場合に限り、FATの支払い可能。

農業法人は、どれだけ収益を上げても、FAT率は同じ。

# トウモロコシ生産の増加要因（アグロホールディングの進展）

## 進展の要因

優遇された税制措置の恩恵



経営規模拡大のインセンティブ

## 2 付加価値税（VAT）

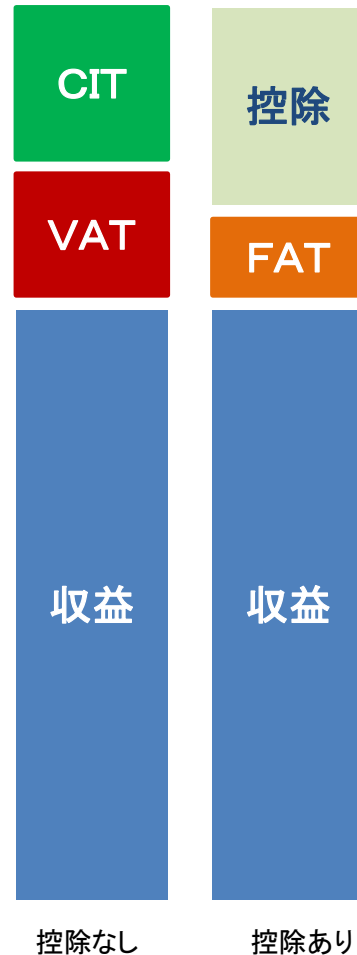
- ・ VATは、消費税に相当するもの、税率は20%。
- ・ VATは一般に、法人の事業活動に課せられる。
- ・ 法人は、全事業収益（税引き前）額の75%が農業生産による場合に限り、VATが免除。

農業法人は、どれだけ収益を上げても、VATは免除。

# トウモロコシ生産の増加要因(アグロホールディングの進展)

## 農地面積が同一の場合

収益	収益(課税対象)
VAT	付加価値税(20%)
CIT	法人税(25%)等
FAT	固定農業税



## 農地面積が拡大した場合

### 【試算】

- アグロホールディングスのFATは、一般に約3ドル/ha
- アグロホールディングスのトウモロコシの単収を7トン/ha(仮定)



1トンあたりのトウモロコシの売却益が0.5ドルあれば、FATを賄うことができることになる。



農地面積が拡大したとしても、収益がFAT分を上回ることが比較的容易。

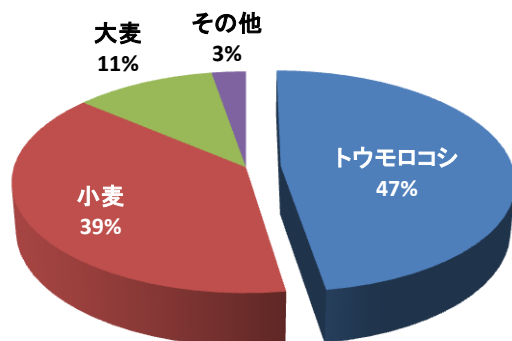
# トウモロコシ生産の増加要因(アグロホールディングの進展)

## ポイント

- ・ アグロホールディングは、他の農業法人と比べ、トウモロコシ生産の割合が高い。
- ・ トウモロコシの全生産量に占めるアグロホールディングのシェアは30%強。
- ・ 豊富な資金力を活かして、能力の高い種子の利用、肥料の投入増加、近代的な農業機械の利用などを進め、トウモロコシの増産を展開。

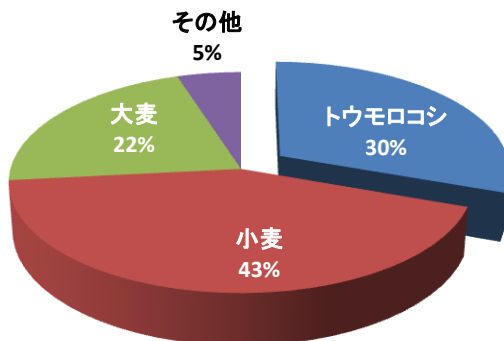
アグロホールディング・法人の穀物生産割合  
(2010年)

アグロホールディング

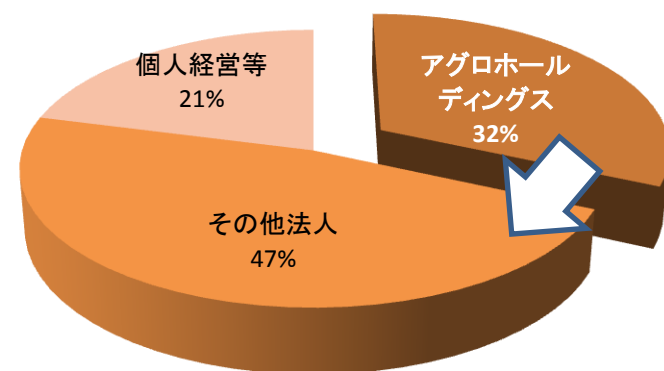


出所:FAO

法人(アグロホールディングス以外)



トウモロコシ生産に占める  
アグロホールディング割合(2010年)



出所:FAO

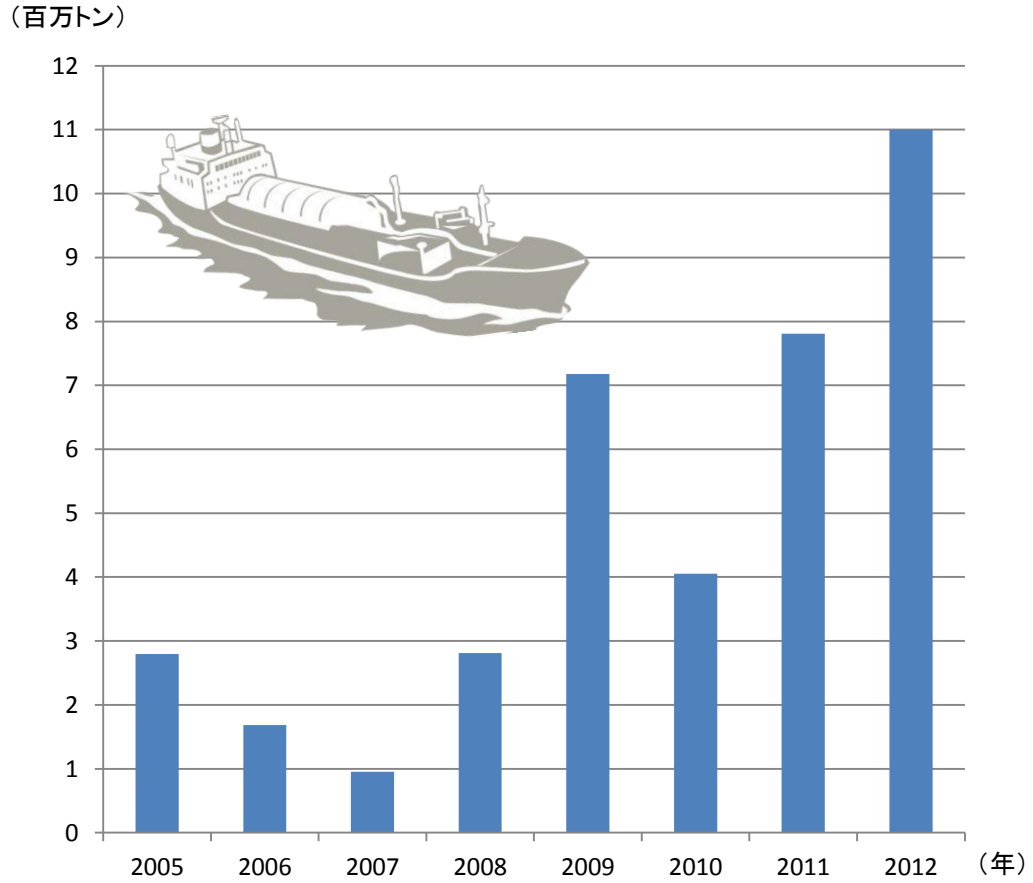
## 2 なぜ、トウモロコシ輸出は拡大したのか？

### 輸出拡大の要因

- 国内飼料需要の低下
- 価格の優位性



トウモロコシの輸出量の推移



※ 2012年は1～9月

出所：ウクライナ統計局

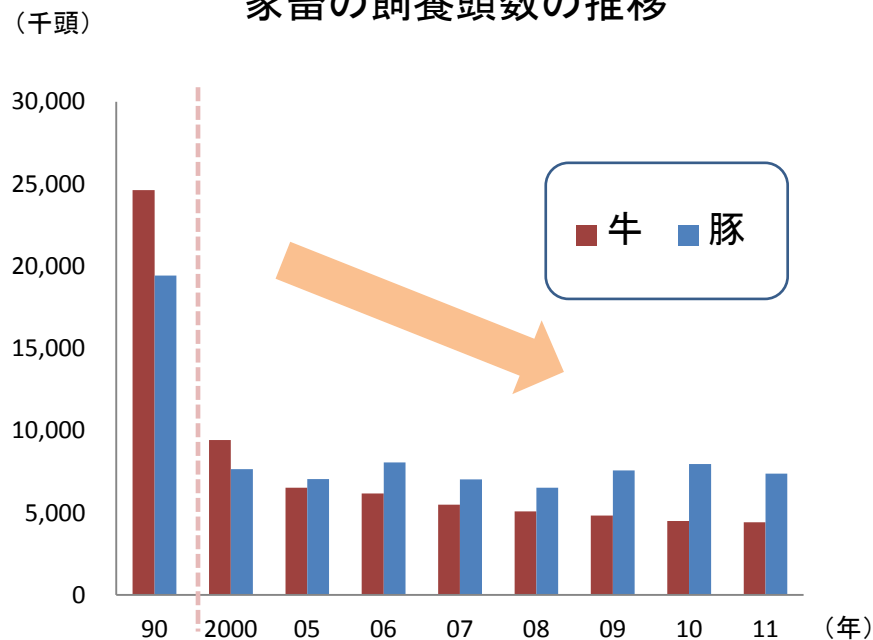


# 輸出拡大の要因(国内飼料需要の低下)

## ポイント

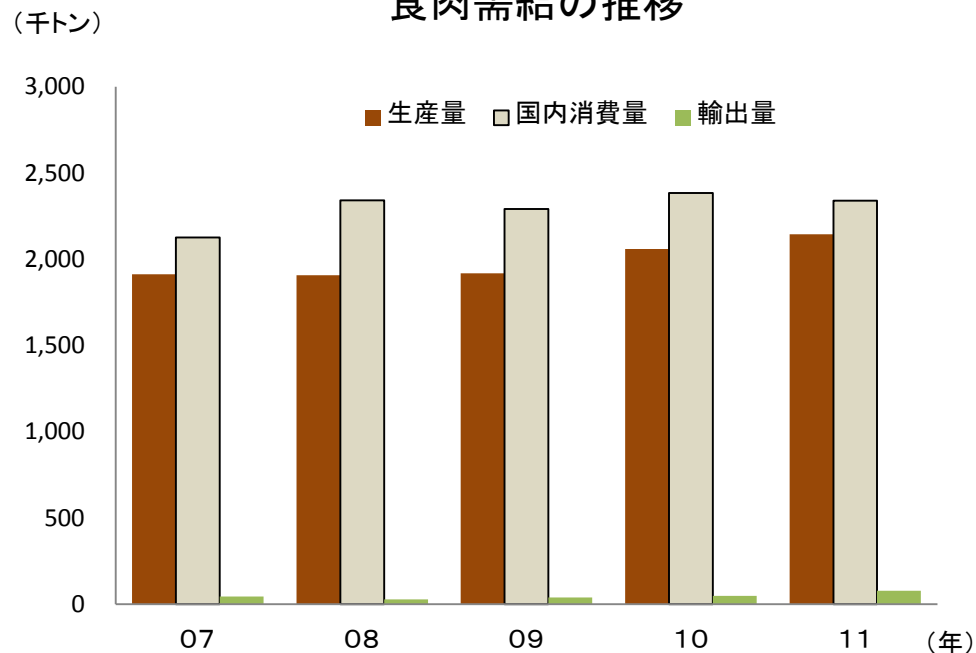
- ・ 旧ソ連時代、ウクライナは畜産物を大量に生産し、ソ連(現ロシア)へ供給。ソ連崩壊後、畜産物のロシア向け輸出が低迷、飼料穀物のウクライナ国内需要が大幅に減少。
- ・ 最近、穀物の生産が旧ソ連時代の水準まで回復した一方、畜産物の生産は減少したまま。
- ・ ロシア向けの食肉輸出は、未だ低水準。

### 家畜の飼養頭数の推移



出所:ウクライナ統計局

### 食肉需給の推移



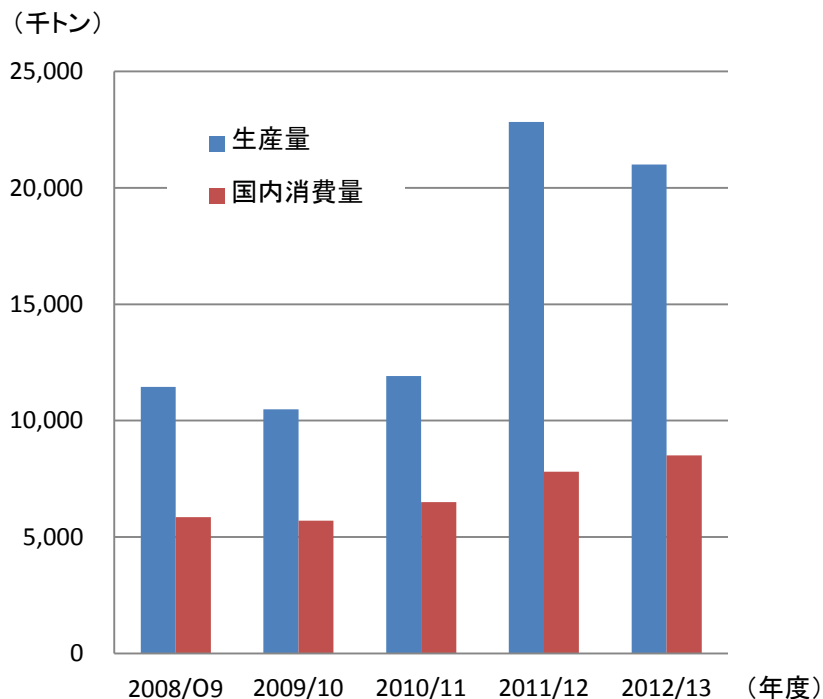
出所:ウクライナ統計局

# 輸出拡大の要因(国内飼料需要の低下)

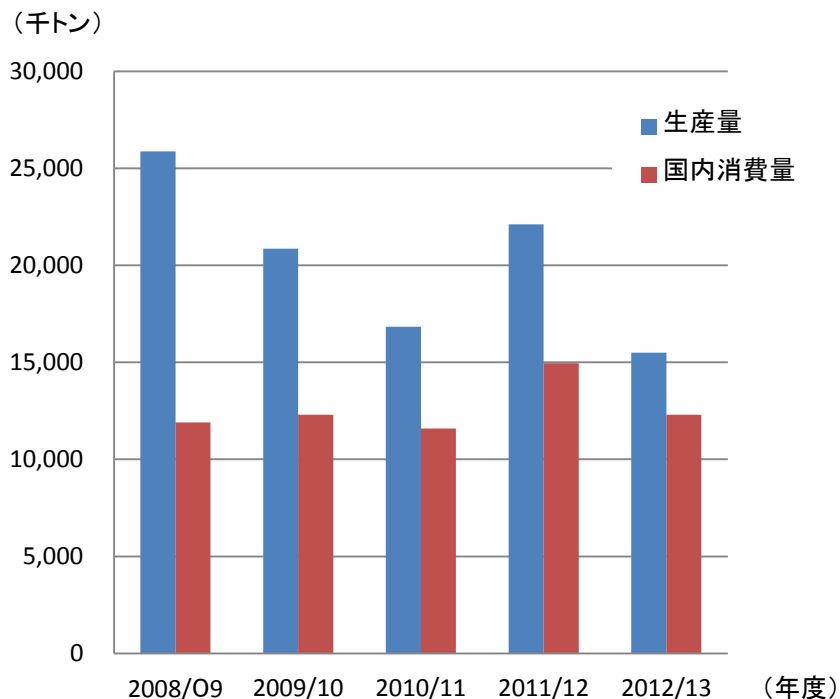
## ポイント

- ・ トウモロコシの需要は、家畜の飼養頭数の減少等により、国内向けから輸出向けへ転換。
- ・ 最近、増産に伴って生産量と消費量の差(約1,500万トン)は拡大し、トウモロコシの輸出余力は高まる。
- ・ 小麦は内需(パンの材料)があり、生産量と消費量差は小さい。

### トウモロコシの生産量と消費量の推移



### 小麦の生産量と消費量の推移

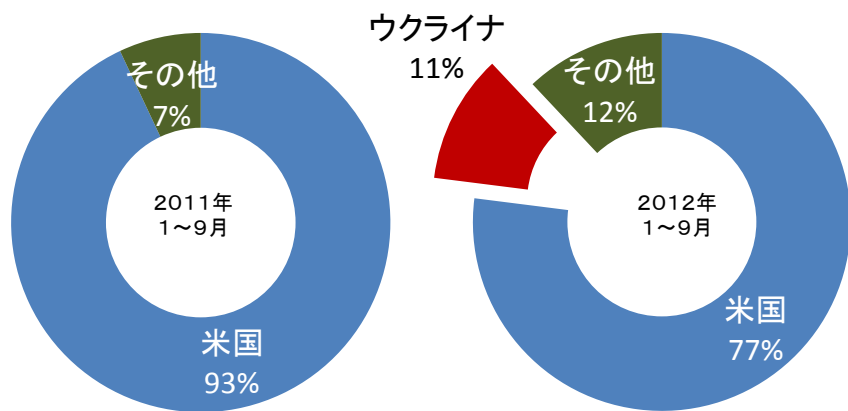


# 価格優位性

## ポイント

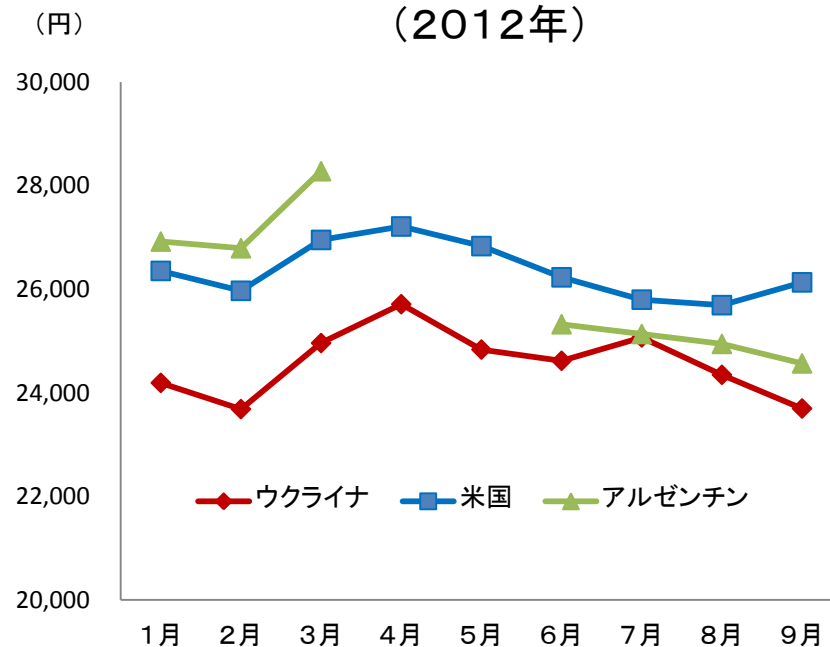
- 日本の貿易統計によると、2012年(1~9月)のトウモロコシの輸入量は、714万トン(うち、ウクライナ産は82万トン)。
- 2012年(1~9月)のウクライナ産トウモロコシの平均輸入価格(CIF)は、トンあたり24,694円、米国産(26,417円)、アルゼンチン産(25,117円)に比べ、低い水準。

### 日本のトウモロコシの輸入先国別割合



出所: 日本貿易統計

### 日本の輸入価格(CIF)の推移 (2012年)



出所: 日本貿易統計

# 価格優位性

## 輸入価格が低い要因

- トウモロコシ生産者は一般に、アグロホールディングを除けば、**保管施設を持たない**。保管料の支払いの軽減(月あたり約10ドル/トン※)を図るため、**収穫時期に集中出荷する傾向**があることから、生産者販売価格は総じて低い。

※ 関係者聞き取り

- 先物相場がないことから、**投機の影響**などを受けにくく、需給以外の価格上昇要因が少ない。

### 3 トウモロコシ(生産)の課題はなにか？

#### 課題

- トウモロコシの品質
- トウモロコシの輸出制限
- 保管施設の老朽化
- 土地取引規制(今後の課題)



# トウモロコシの品質

## 課題

トウモロコシの粒に割れが多い。

## 原因

- ・ 乾燥機械(ドライヤー)や農業機械が古い  
(全農業機械の4/5は15~20年前に製造されたものを使用。旧ソ連時代からの使用も。)
- ・ ハンドリングが雑
- ・ 品種の不適合  
→ 粒の水分が多いまま、乾燥させると粒に割れが生じる。  
欧米の気候などに適合した単収の高い品種を使用すると、収穫の際、水分含有量が高くなる。

※ 関係者からの聞き取りに基づく。

## 最近の変化

- ・ アグロホールディングなどは機械を更新
- ・ 大手トレーダーでは、エレベーターなど施設を近代化
- ・ ウクライナの気候・土壤に適した品種開発と利用 (パイオニア社の「Clarica」など)


粒の割れは、改善へ

# トウモロコシの輸出制限

## ポイント

- ・ 2010年は小麦減産の影響で、輸出制限を発動。
- ・ 輸出制限の対象は通常、小麦に限らず、トウモロコシ、大麦、ライ麦、そば。
- ・ ただし、トウモロコシの生産量は前年を上回っていた。

## 2010年～2011年の輸出制限の動向

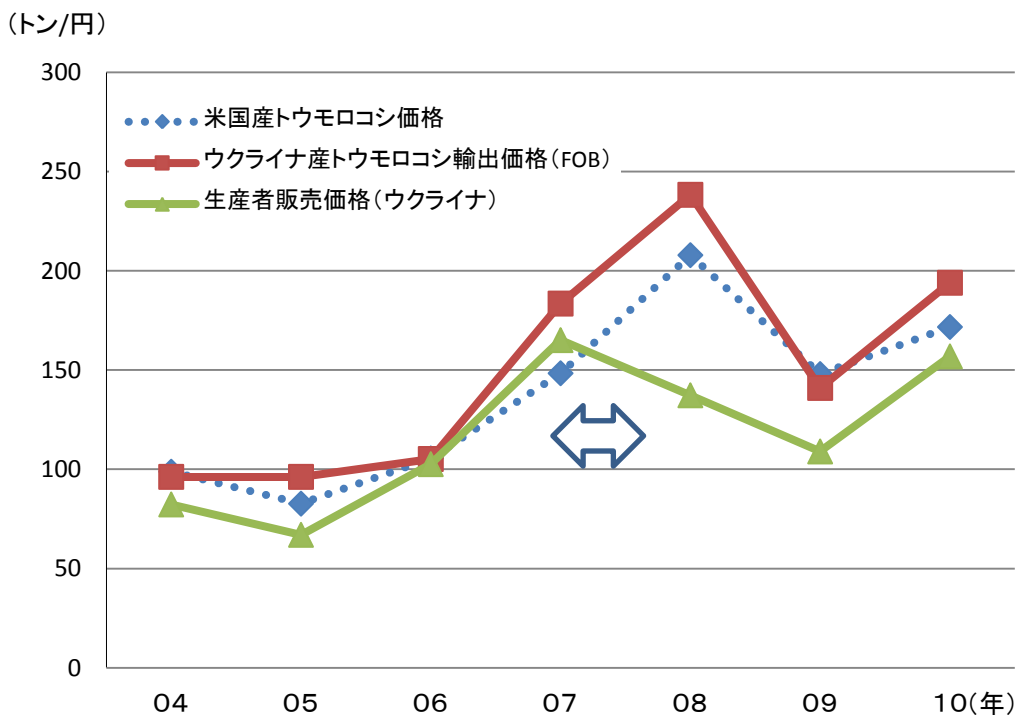
品目	輸出割当				輸出税
	10/19～12/31	1/1～3/31	4/1～5/4	5/5解除(小麦は6/4)	7/1～10/21(大麦12年1月まで)
 (トウモロコシ)	200万トン	100万トン追加	200万トン追加		12%または20ユーロ/トンのいずれか高い方
 (小麦)	50万トン	50万トン追加			9%または17ユーロ/トンのいずれか高い方
 (大麦)	20万トン				14%または23ユーロ/トンのいずれか高い方
 (ライ麦・そば)	各1千トン				

# トウモロコシの輸出制限(生産者への影響)

## ポイント

- ・ 2007年後半以降、政府は数次、トウモロコシを含めた穀物の輸入制限を実施。
- ・ 価格の高い輸出向けが停止したため、トウモロコシを国内消費に仕向けざるを得なかった。国際価格が上昇しているにもかかわらず、生産者販売価格は下落。

## トウモロコシ価格の推移



輸出制限は、生産者にとって、販売価格が抑えられるなどデメリットは大きい。



輸出制限が長引くと、生産者の経営に大きく影響を与える。



## (参考)輸出制限の国際ルール

---

- 根拠法;GATT第11条「加盟国は、関税その他の課徴金以外のいかなる禁止又は制限も新設し、又は維持してはならない」

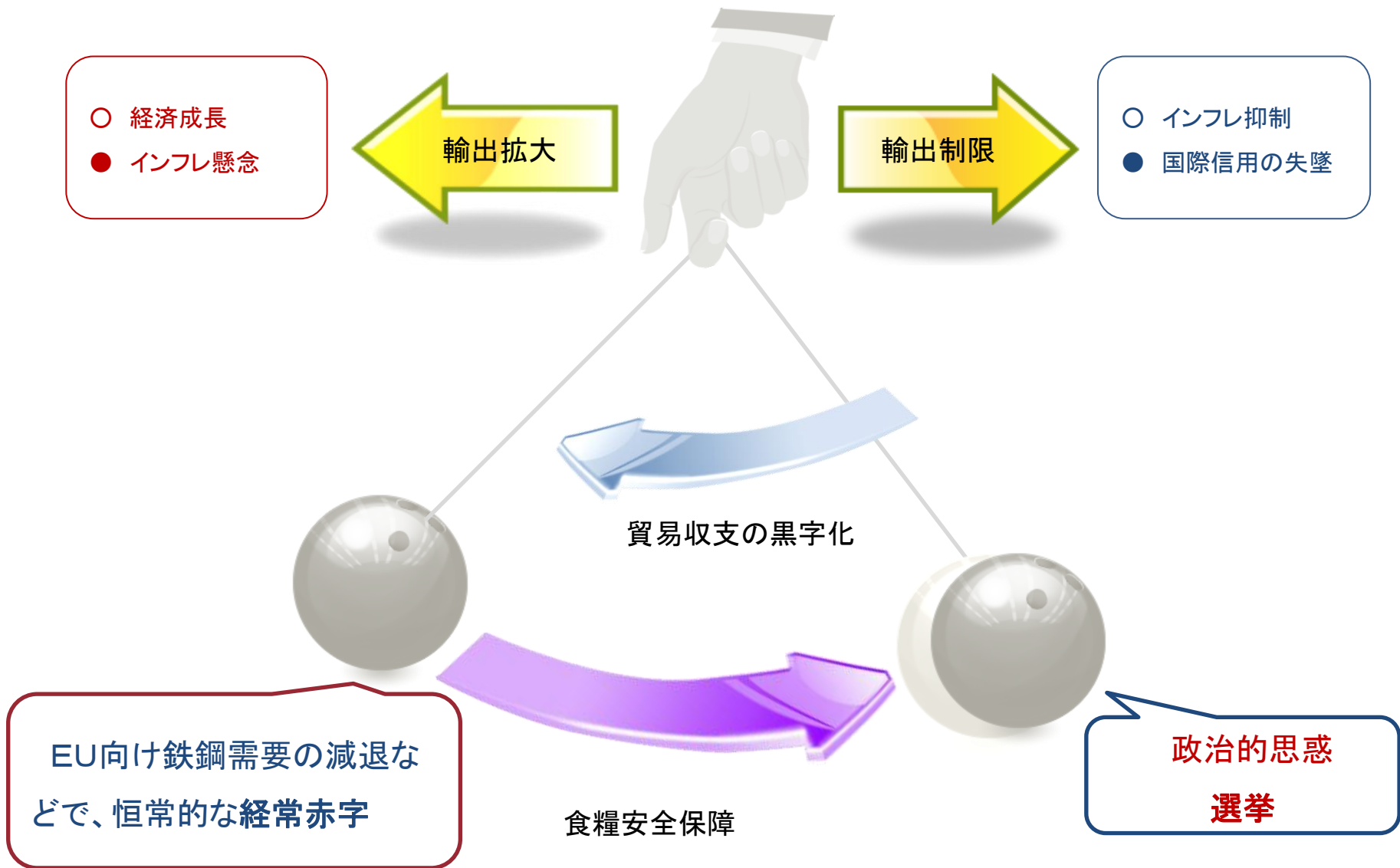
ただし、食糧その他輸出国によって不可欠な物資が危機的に不足することを防止する場合にあっては例外。

- 問題点;WTO農業協定では、GATT第11条の適用には、次のことが求められている。

- ・ 制限の新設等に先立ち、書面で通報
- ・ 輸入国等利害関係国との協議

輸出国は、書面の通報や協議なく、輸出制限を実施することもある。さらに、制限の正当性を判断できないこともある。

# トウモロコシの輸出制限

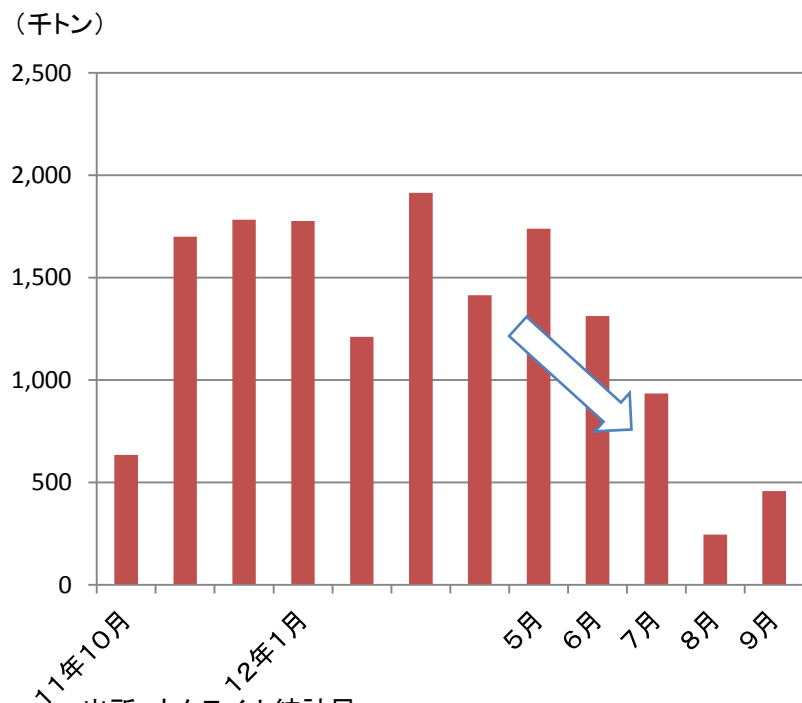


# 保管施設の老朽化

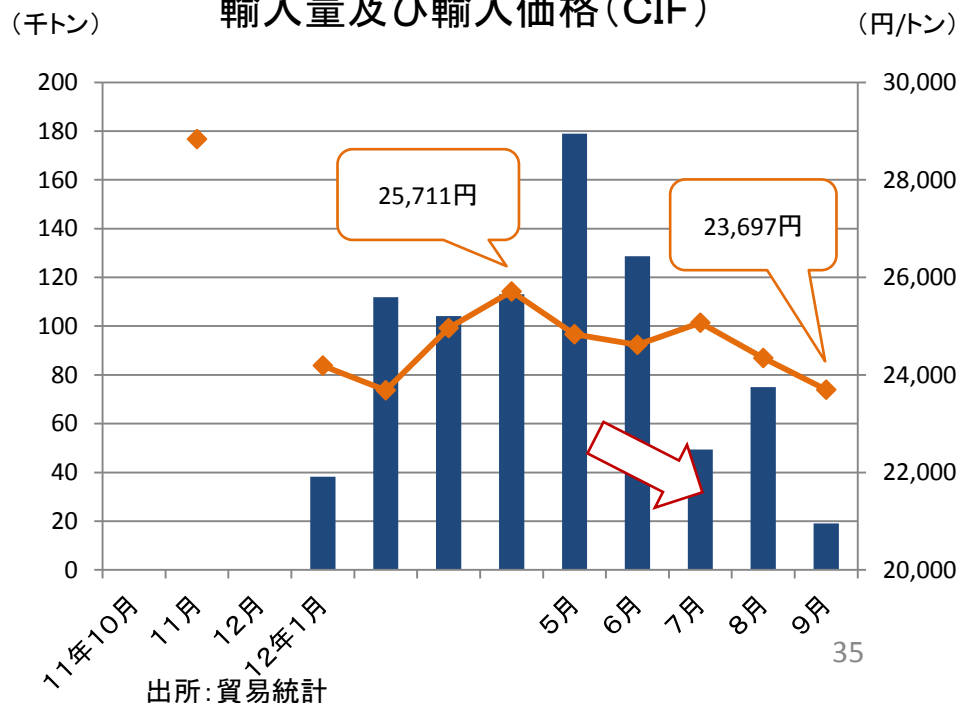
## ポイント

- ・ 農業インフラの未整備のため、収穫以降、トウモロコシの品質が徐々に低下。品質劣化の影響で、6月以降、ウクライナの輸出量は大きく減少。
- ・ 7月以降、日本の輸入量は減少。品質が劣ることから、輸入価格も低下。
- ・ 10月以降、輸出向けが新穀に切り替わることから、日本の輸入量も増加し、輸入価格も上昇することが見込まれる。

### ウクライナにおけるトウモロコシの月別輸出量



### 日本におけるウクライナ産トウモロコシの輸入量及び輸入価格(CIF)



# 土地取引規制

## 経緯

- 02年 農地の取引を暫定的に禁止(モラトリアム)。
- 12年10月 モラトリアムを2013年1月1日まで延長。

## 現状

農地の売買が禁止されているため、もっぱらリース契約(最大49年、通常1~5年、年間リース代40~50ドル/ha)によって、農地を利用。

## 今後の想定

トウモロコシ価格に変化

## モラトリアム解除の影響

- 地価の高騰に伴って、零細農家の多くは、土地を手放す。
- アグロホールディングなどが多くの農地を買い占め。肥料投入、高品質種子の利用などが進み、生産増へ。
- 外資による農業の寡占化。

関係者によると、13年1月にモラトリアムを廃止したとしても、外国人の農地取引は認めない方向。ただし、欧米からの解除圧力もある。したがって、現実的な対応としては、再度、モラトリアムを1年程度延長か。

### ○ ウクライナのトウモロコシ生産は、今後、伸びるのか？

高品質な種子の利用拡大、肥料投入量の増加などが進むことが見込まれ、今後も生産は拡大するものとみられる。

### ○ ウクライナのトウモロコシ輸出は、今後、拡大するのか？

国内の飼料需要の低迷する中、トウモロコシの生産拡大に伴って、今後も輸出は拡大するものとみられる。  
ただし、輸出制限は懸念材料。

## まとめ

---

### ○ ウクライナ産トウモロコシの品質は改善されるのか？

高品質かつ、ウクライナの土壌・気候に適した種子の利用や、農業機械の更新が進めば、改善へ。

### ○ 今後、トウモロコシ価格は上昇しないのか？

現時点で、価格上昇は限定的。今後、アグロホールディングの寡占化が進んだ場合、国際的な要因がより大きくなる可能性がある。ただし、アグロホールディングの寡占化は、日本にとって安定供給に寄与するとともに、アグロホールディング間の競争により選択の余地が広がる可能性も。

日本は、ウクライナ産トウモロコシを、安定的に調達できるのか？

懸念は・・・

# カントリー・リスク

## 対ロシア外交

ウクライナは、ユーシチェンコ前大統領時代、①天然ガスパイプライン問題、②黒海に駐留するロシア艦隊問題、③NATOの加盟に向けた動きなど、反ロシア外交政策を展開。ロシアにとって、ウクライナは、国防上、極めて重要な国であることから、ウクライナの政策運営に、しばしば干渉。両国の関係は悪化。

10年に誕生したヤヌコービッチ大統領は、ロシアとの協調外交を推進。12年10月の議会選挙でも、与党が勝利していることから、当面、ロシアとの関係は改善される見通し。ただし、現政権は、ロシアから供給される天然ガス価格の値下げ、ロシア・ベラルーシ・カザフスタンとの関税同盟参加要請への対応と、対ロシア外交では難題が山積みされている。**ロシアとの関係は、ウクライナの経済・投資環境に大きく影響。**

## IMF融資凍結

2010年7月、ウクライナ政府は、IMFと約151億ドルのスタンバイ融資を合意。これまで、IMFは、2回のトラシェ(分割融資、合計26億ドル)を実施。IMFは、家庭用ガス価格の引き上げの未実施と財政赤字解消の方針がないことを理由に、**第3回のトラシェを凍結。さらに、12年末には、約30億ドルのIMF債務の返済期限を迎える。**

ウクライナの外貨準備高をみると、299億ドル(2012年8月)有しており、直ちに、大きな経済的な混乱を招くものではないものの、IMFの融資は不可欠。ただ、IMFの条件を受け入れると、消費低迷要因に。

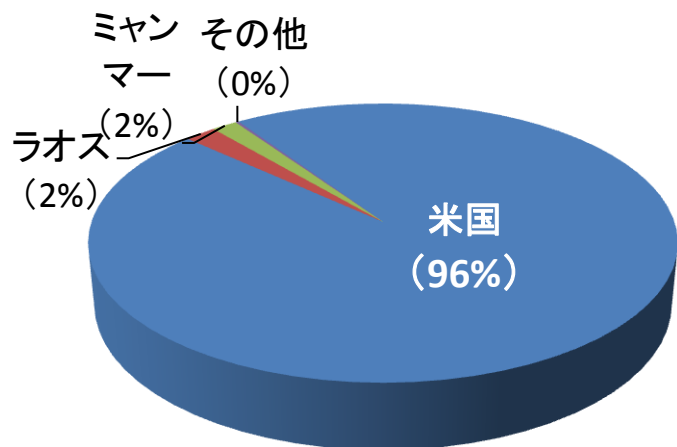


# 中国の動向

## ポイント

- ・ 米国産トウモロコシの依存度を下げるためにも、中国はウクライナとの関係を深める方向。
- ・ ウクライナ政府は、中国輸出入銀行との農業開発プロジェクトなど(総額30億ドル)について協議。プロジェクトの見返りに中国向けにトウモロコシを輸出。
- ・ 12年11月9日、両政府は、トウモロコシ輸出に係る品質条件などを合意し、今年末までにトウモロコシ5万トン輸出する見通し。

中国のトウモロコシの輸入国シェア  
(2011年 175万トン)



出所: GTI  
HS 100590

## プロジェクト実施条件の主な内容

- ・ ウクライナ政府は、年間200万～600万トン(政府保証500万トン)のトウモロコシを中国向けに輸出。
- ・ ウクライナ政府は、中国向けトウモロコシの50%相当額の中国製農業資材(肥料や農薬)の購入義務。

※ 政府関係機関等からの聞き取りに基づく



本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断をお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは責任を負いません。

***Thank you***